

別紙

市政懇談会『財政の健全化』 質疑・意見交換

質 問 ・ 意 見	回 答
◇ 健全化計画全般	
<p>・大変なことは実感している。計画は紙の上ではどんな数字も作れる。現実性はどうか。</p>	<p>・今、財政は危機的な状況にある。財政危機宣言を通して、市民の皆さまにはそうした状況を理解してもらいたい。</p>
<p>・かなり思い切った改革案、絵に描いたような素晴らしい案。改革のためには協力したい。市職員も努力しているとわかる。しかし、この通りいくのか不安がある。</p>	<p>・病院に支援していく市の財政が絵に描いた餅になっては大変である。今までは経営的観点が多く、国の補助金に頼っていた。これからは、身の丈にあった経営をしなければならない。職員全員が責任、使命感を持って計画を進めていかなくてはならない。</p>
<p>・この計画のとおり7年間でやれるのか不安な人たちも多い。</p>	<p>・市が病院の不採算の部分を応援しながら、病院は新しい赤字を作らないということで、市、職員一体となって何がなんでも目標を達成しなければならないという強い思いでいる。</p>
<p>・給与削減20%では先が見えている。再建計画も絵に描いた餅に終わるのではないかと。17年にも、平準化ということで財政再建をかけたが、そのとおりにはいっていない。</p>	<p>・17年の計画とおりに進んでいる。病院の債務がこれだけ大きくなったので新たな計画の策定が必要となった。</p>
<p>・休廃止は、7年間は固定か。話し合いによっては見直しの可能性はあるのか。</p>	<p>・7年間はこのとおりに進める計画である。ただし3年間は集中期間であり、病院の状況によっては皆さんと相談しながら見直しも考えている。</p>
<p>・今までもそうだが、見直し案はもう決まっていて、事後決裁みたいな感じがする。</p>	<p>・市の財政状況について、これまで情報公開が徹底されていないとすれば、市民にお詫びしなければならない。</p>
<p>・平成27年に赤字解消になると、見直し項目は元に戻るということなのか。</p>	<p>・この状態を回復したいと思うし、皆さんの意見を聞きながら回復していきたいと思います。</p>
<p>・市民にいかに知らせるか。自分の町内会では町内会長の懇談会の内容を独自で配布した。市では広報や町内回覧で周知しているものの、一人でも多くの市民に知らせる効果的な方法を考えてほしい。そしてなるべく早く実施したほうがよい。</p>	<p>・より多くの市民と直接お話をしてお話をいただき、しっかりと信頼関係を築き、そして市立病院の状況を知っていただき、市民病院としてしっかりと認知し守っていただきたいという思いを伝えなければならない。ご指摘の件については、今後よりよい方法を努力したい。</p>
<p>・市民への説明が遅い。再来年度に向けての予算であれば市民も考える時間はあるが、来年度では間に合わない。時間がないのにあえて言うのは、7年の間でも様々な要因で色々なことが起きることもある。その時はもっと早く周知するようにしてほしい。</p>	<p>・国の特例債の方針がなかなか示されず、そのため計画を組めなかった。ご指摘のとおり、しっかり受け止めていきたい。</p>
<p>・市の情報発信、市民との相互のやり取りが足りなかったのでは。情報共有と市民の自覚をしっかりとしなければならないのではと思う。これからは、市民も市政に対し、どんどん意見を言うべきである。</p>	<p>・まちづくりの段階で情報を深く提供していなかったことは反省したい。お互いに関心を持ち、情報を伝える。市民の皆さん方にすべての情報が伝わり理解されるよう努力する。</p>
<p>・これから懇談会で発言されていくと思うが、全くこれらの意見が反映されないのか。</p>	<p>・多くの市民の皆さんの意見を聴いて、また、12月議会での議員からの意見も出てくると思うので、これらも踏まえ、最終的に総合的な判断をしていく。</p>
<p>・21年度予算は市民からの見直し案を受け入れる余裕があるのか。いつまで見直しは可能なのか。</p>	<p>・効果額は達成しなければならない。この計画で提示した数字の中でやり繰りをしないと財政危機を乗り越えられない。ご理解願いたい。</p>
<p>・見直し項目で、これは絶対にどうにかしてほしいとなった場合計画額に足りなくなるが、足りなくなった場合はどうするのか。違う案も用意されているのか。</p>	<p>・この計画の項目のどれかが通らず、財政的に組み立てができない場合については、当然市民に市税の引き上げ等の負担を求めたいかなければならないと考える。</p>
<p>・例えば、この中でどれかが通らなかった場合、またどこかを削っていかなければならないと思うが、例えば受益者負担の増など、他に波及していくこともあり得るのか。</p>	
<p>・市民がそれに対して反対となればどう対応していくのか。これ以上市民へ負担を求めても景気が悪化している中、共倒れにもなり、負担を強いることが市民にとって非常に厳しいものと考えているが。</p>	<p>・財政再建は今回3度目の提案であり、今までも議論し協力いただいたところだが、教育まで踏み込むべきではないと考えてきた。しかし、市立病院はとてつもない赤字を抱えてしまった状況にあり、これを何とか立て直すためにも市民に理解していただきたい。</p>
<p>・市民がプールをやりたいとして休館しない場合は、この計画は何年延びることになるのか。</p>	<p>・今回は病院の35億円の解消が課題である。特例債を借りて本来5年で立てないとならない計画を、財政規模も考慮し7年に延ばしてもらった。国の指導の中ではこれ以上延ばすことはできない。</p>
<p>・特例債を借りる計画を9月までに国に出すこととなっているが、該当</p>	<p>・国に対しては全体的な効果額で示しているのので、効果額全体の中</p>

項目を明記して国に計画を挙げているのか。そうであれば懇談会を開いている意味がないのではないのか。

・これだけの負担を受けたら人口がどんどん減っていくと思うが、それを考慮した計画であるのか。過去にも、その段階の人口で計画を作って実行されないことがあった。

・人口は減っている。自然減に加え支庁制度改革、開発局の廃止意向などに伴い人口が減る。高齢化も進み収入も少なくなる。7年後の歳入減をどのように見ているのか心配である。

・人口が減少している中で5億円を7年間も出せるのか不安を感じている。

・余裕のある人達は留萌からどんどんいなくなり、仕事がある人や老年寄りしか残らないため、一般会計の金額もどんどん減っていく。

・住みにくい、元気がないまち、人口の流失を招く悪循環を招く可能性もある。市が発展していくため、長期的に何が必要で何が必要でないのか考えてほしい。

・留萌は山があるのにスキー授業が受けられない、水泳授業も受けられない。留萌に育ったために受けられないということは、教育と文化的な生活は再生団体同様である。

・再生団体になった場合、市民負担はどのくらいになるのか。職員給与も20%で大変だと思うが、その辺も含めてどうなのか。

・夕張になったら大変だといわれているが、どの程度大変になるのか。

・再生団体になってしまった場合、病院はどうなるのか。

で、市民の意見を聴いて最終的な判断となるが、十分に検討を重ねた計画であり、この計画で効果額を出して取り進めていきたい。

・国の出先機関、道の出先機関の再編の問題もあるが、それらを含めた人口動態を考慮しながら出している。理解願いたい。

・国の出先機関は今の政権の中で方向性は不透明あるが、道も維持するべきとしている。

・今の人口から、状況によっては4,000人も減少を見なければならず、それを見込んで数値は出している。

・支庁制度関連では経済、市税も大きな影響がでる。道は、その分の地域振興に向けての事業に対して支援したいとのことだが、どれだけと不透明な部分もあるが、道、市として取り組んでいるものについては来年度、新たな予算から積極的にお願いしたい。

・交流人口を増やすという施策についても、財政が厳しい中であっても将来に向けて取組み、人口減少をくい止める努力はしなければならない。

・ヘルスツーリズム、マリンツーリズムなどのいろいろな取り組みを新たな事業として調査しながら頑張っていきたい。

・子ども達が水泳、スキーが受けられないことについては申し訳ない計画と思っている。

・地域医療を守っていくということを子ども達にも伝えていきたい。総合的な判断をして、このような決断をしている。父母の皆さんと相談しながら、子ども達の健全育成をどう図っていくか、7年間で病院をしっかり建て直して、その後、しっかりとした環境整備をしていかなければならないと考えている。

・かつての再生団体は、職員給与のカットは1割で、職員数を適正数にして国が責任のもとで立て直していた。

・夕張は留萌とは比較にならない数百億の負債を抱え、それを18年間で返すといった長い計画が続く。

・夕張の場合は普通では考えられない借金をしていた。自治体は長期の借入で短期の借入はあまりしないが、夕張は短期借入借金を増やしていった。夕張、留萌、赤平は産炭地域で国から特別な支援がされていたが、ここに至って交付税がカットされ、夕張はああいう形で負債大きくなり、市の職員も3割カットになった。

・留萌市の場合は協力を頂きながら健全化してきた。プールは市民、職員の協力を得てこの3年間何とかやってきたが、今回は病院の負債があまりにも大きく、見直した場合ぶるも5千万6千万を負担することは厳しい。

・病院の赤字は全国的なもので、ある町では毎年15億円を病院に負担するところも出てきた。しかし、そうしないと地域医療を守れない。救急医療を守り、安心を守るためには、我慢していただくところは我慢していただいて再生団体に墜ちない。財政再生団体になれば基本的なライフラインの整備もできなくなり市民生活に大きな影響が出ることを理解いただきたい。

・この計画で行けば墜ちない。皆さんの協力をいただいて、一体となって市立病院の借金をともかく返し、7年間で健全な財政にすればもう一度子ども達に喜ばれる施設の再開ができるのではないのか。

・職員給与は、夕張や赤平の前に削減をしてきている。今回の大幅な削減で何とか切り抜けていきたい。

・病院の機能はほとんどできなくなるとわれ、診療所レベルくらいになってしまう。当然救急医療はできないので、毎回旭川に救急車で搬送することになる。

・再生団体になると、不採算部門は全てやめなさいと国から指導されると思われる。すなわち救急、小児、産科はなくなり、規模が縮小され公立病院としての機能が維持できなくなる。

・夕張は2次救急、産科、透析が廃止となり、機能的には非常に落ちた。赤平も給与削減の影響もあったが1/3の看護師が離職して、機

・財政再生団体になってしまったら、普通のまちに戻るのには難しいのか。

・市民にかなり負担をかけるものである。早く再生団体になってもらいたい。第三者の意見を入れ、これが正しいのか判断をしたほうがいい。

・病院に5億円を投資するより、公共事業に投資するほうがいいのか。

・今回の計画は、平成15年度に策定した都市計画マスタープランとの整合性を考えているのか。

・これだけバラバラに物を作るまちを見たことがない。プールは、あれほど身の丈に合わない施設は無い、非常に使用しづらい施設である。誰が考えたのか、人口に見合ったものを、もっとコンパクトにできなかったのか。自分が選んだ議員も悪かったのかと思うが。

・後ろ向きの考えでつじつまあわせのような対応ばかりである。だからこそ第三者を入れてもらいたい。留萌のためにいい方向にもっていくという考えでなければ良くならない。

・ぶるものテナントが無くなるのを止められないのは駐車場の問題と思うが、見通すような計画ができなかったのか。ふるさと館も病院もそうだと思う。市民の意見を広く聞き、作るべきであった。教訓にするためにも責任の所在などを検証してほしい。

・もっと優先順位があるのではないか。7年で赤字が無くなる、素晴らしいことだが、7年でできるほど豊かだったのか驚いている。私たちも協力できることはするので、本当に無駄遣いをやめるという判断をしてほしい。

・市民一人一人が本当にどう考えていくのかが大切だと思う。要求だけを言っただけは駄目だと思うし、できてしまった物をどうのといっても仕方ない。

・H20予算書では、病院事業会計への補助金について、16億3千7百万と計上されているが、どのような財源を取り崩して、何に使おうと書いて計上されたのか教えてほしい。

・市立病院の建設費の残高はどの程度あり、一般会計からどの程度

能低下に陥っている。

・夕張も赤平も岩見沢、砂川といった比較的近くにしっかりとした医療機関がある。留萌の場合は市立が中核として担って、旭川、札幌、深川まで距離があり、他地域と同様に考えられない。これについては、国に公立病院のあり方委員会の中で、特別な支援を講じるよう要請している。

・市全ての事業に国の許可が必要になる。国の指導で市民に相当の負担がかかることになる。再生団体は何がなんでも避けなければならない。再生団体になったらまちの経済そのもの破綻してしまう。

・まちを第三者にゆだねることは考えていない。

・水道も再整備をしなければならない。再生団体になると新たな施設もなにもできなくなる。

・夕張と留萌の違いは、夕張は観光事業で疲弊し破綻した。留萌は地域の医療を守るために病院を建設し、子どもたちためにプールも建設した。今まで作った施設を、ここ数年病院を守るために市民の皆さんに我慢してもらいたい。

・病院が借金をしなければこんなに苦労はしなかったが、その道を選ばず再生団体を避け、市民と行政と議会が一緒になって情報を共有して留萌の再建をし、地域医療を守っていく。

・今は病院を守らないと地域は守れない。景気対策についても、財政が好転してから手を入れていく。

・総合計画は当然、都市計画マスタープランとの整合性をとっている。進捗率は予算・財政面から思うように進んでいないが、マスタープランは生きている。

・中心市街地と郊外の都市計画バランスはその通りと受け止めている。中心市街地の計画は10年20年先を見据えたしっかりとした考え方を持たなければならない。コンパクトなまちづくりの計画等についてもしっかりと責任をもっていく。

・当初の都市計画は人口7、8万人に合わせた計画。途中人口減少時代になって、交流人口を増やすためにふるさと館、ぶるもを作った。国、道の補助金を使用し市民へサービスを提供しようと考えたものであり、プールは再開発事業である地域の再開発を進めるために建築したものである。ご指摘のとおり、その非を認めなければいけないし、これからはコンパクトなまちづくりを進めなければならない。意見として重く受け止める。

・これまで、12年、17年と財政再建を行ってきた。その都度留萌市の財政状況を勘案しながら再建に取り組んできた中で、地方交付税の減額の影響もあり、また、将来展望を持った施設整備だったのかという指摘については、その時の景気対策として取り組んできた。今考えると、背伸びの部分もあったのかという思いもあり、今後の施設整備については、充分市民の皆様の意見を聞いていかなければならないと思っている。

・ぶるもなどの立地に対してのご指摘は十分理解できる。色々な議論を経てこのような配置になった。将来を見据え、しっかりシミュレーションをして慎重に場所を選ぶべきであった。反省すべき点はしなければならない。

・7年後のことを考えると、許される範囲で最低限のことをしないと7年後には何もなくなる。7年後の留萌がどうなっているのか、みんなどう生きていくのかを考え、思いやりや優しさで助け合っていかなければならない。

・作ってしまった以上はいかに利用するかを考えていかなければならない。しかし、財政がこういう状況の中では廃止、休止せざるを得ない状況を理解いただきたい。

・当初15億円を赤字の補てん分として病院会計へ繰り出しを考え、その後、特例債の話が出てきたため、18億円を特例債の制度を活用して、15億円は一旦戻して今後の35億円全体を支援する財源として活用した方が財政運営でのメリットがあると考え、組み換えするもの。

・15億円の内訳については、各種基金、貸付金、一般会計からの改革努力による黒字分を財源としている。

・建設の借金残高は20年度末で概ね90億円。毎年5億弱を元利併

<p>負担していくのか。また今後、合計で病院に対し一般会計からどの程度負担がなされていくのか。</p> <p>・市における医療費の負担、医療費削減の具体策はあるのか。</p> <p>・15億円の財源がある。そして職員給与の削減19億もある、市民負担も16億あるのであれば、そこまではする必要はないのではないか。</p> <p>・市民にこれだけお願いするとしたら、職員の数も減らさなければならぬ。</p> <p>・市役所はなぜ夫婦で入れるのか。親子、兄弟がだめなのになぜか。</p> <p>・このような状況においても夫婦を働かせるのか。</p> <p>・夫婦の職員を辞めさせないのであれば、臨職、嘱託はいらないですよね。</p> <p>・本当に必要か、暇にしている職員がいる。</p> <p>・ふるも存続の陳情団に対し市長はノーの返事をした。財政再建にかける市長の決意の表れと受け止めている。</p> <p>・市の方も厳しい内部の痛み、既に痛みを受けながら進めていることは理解している。</p> <p>・財政破綻しないようがんばっていただきたい。</p>	<p>せて返していくが、そのうち利息分の約5千万を市から支援。残り4.5億は病院で返していくが、うち4億程度は地方交付税で措置されている部分もある。</p> <p>・去年は、建設費支援分等で5.6億円程度の負担であったが、今年度は、救急、小児等の追加分も併せて7.4億となり、これがベースとなって、来年度からさらに不良債務解消分として35億円を7年間にわたって毎年5億ずつ支援していくこととなるため、7年間は12億程度の負担となる。それ以後については、また、7億程度の負担に戻るものと考えている。</p> <p>・国保は未収も対応しながら、このような流れの中で数値目標を立てて努力していくので、ご理解願いたい。</p> <p>・市の一般会計も来年から借金の返済がかなり大きくなり、このままでは5億円くらい不足になる年度もある状況もある。</p> <p>・これまでも指定管理者や職員適正化計画を行って、今回の計画は相当厳しい職員数になっている。公園の管理などを含めて皆さんにお願いする部分も十分踏まえて適正な職員配置計画をしていく。</p> <p>・市職員は地方公務員法に基づいて採用されているので、夫婦については問題ない。</p> <p>・たまたま職員同士で結婚したからといって辞めさせることは法的にはできない。</p> <p>・職員の数も削減してきているため、市民サービス、行政としてやらなければならないことを考えると、適正な数は必要である。</p> <p>・そういうことの無いようしっかり指導していきたい。</p>
--	---